

# 仙北市観光振興計画



秋田県仙北市

平成20年3月



## はじめに

平成17年に角館町、田沢湖町、西木村の合併により誕生した仙北市は、旧町村当時から、豊かな自然や景観、代々受け継がれてきた歴史や文化、地域の人々のあたたかな人情など、それぞれの地域がもつ特色ある豊富な資源を活かして、その地域に合った観光施策を推進してきました。

仙北市となって、地域間の結びつきが強まったことにより、不足している部分を補い合い一体となった取り組みを進めるとともに、地域の持ち味を活かした施策を展開するなど、これまで以上に多彩で深みのある取り組みができる環境となりました。

このため、まちづくりの指針である仙北市総合計画において、市の将来像を「観光産業を活かした北東北の交流拠点都市」と定め、交流人口1千万人を目標とするテンミリオン計画を掲げるなど、観光をまちづくりの大きな柱として位置づけ、なお一層、観光振興に取り組んでいくこととしております。

その推進に当たっては、農林業、商工業など産業連携を図るとともに、関係団体、企業、市民等とのネットワークを強化し、全ての産業にその効果をもたらすような取り組みを進め、仙北市が潤い、市民が「豊かになった」と感じるまちづくり、訪れる人に「来てよかった」と感じていただけるまちづくりを推進してまいります。

この計画は、仙北市の観光施策を進める上での道しるべとして策定いたしました。今後、計画に掲げる施策を着実に実行し、具体的な成果をあげることが重要でありますので、関係団体や市民の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

終わりに、計画の策定にあたり、熱心にご討議いただきました観光振興計画策定委員の皆様をはじめ、ご協力をいただきました方々に深く感謝申し上げます、ごあいさつといたします。

平成20年3月

仙北市長 石黒直次

# 目次



観光振興計画体系図	3
-----------	---

## 第1章 序論

1 計画策定の目的	4
2 基本理念	4
3 計画期間	4

## 第2章 仙北市の観光の現状と課題

1 観光客の動向	5
2 観光の経済効果	7
3 観光資源	7
(1) 自然環境	7
(2) 食、特産品	8
(3) まつり、イベント	9
(4) 歴史、文化	9
4 交通アクセス	10
(1) 道路	10
(2) 鉄道	10
(3) 航空	10
5 観光の主な課題	10

## 第3章 施策の基本方針と展開

1 基本方針	12
2 重点施策	13
3 エリア別推進方向	13
4 施策の基本方向	15
5 施策の展開	16
(1) 豊富な観光資源の活用と掘り起こし	16
(2) 観光基盤の整備と交通の充実	19
(3) 「おざってたんせの心」による受入態勢づくり	22
(4) 観光情報の発信と情報の収集	24
(5) 観光と農林業、商工業の連携	26
(6) ほんものと出会える体験型観光の推進	27
(7) 国際観光の推進	29

## 第4章 計画の推進に向けて

1 計画推進体制の整備	31
2 市民、観光事業者、観光関係団体、行政の役割	31
3 施策の推進プログラム	33

## 資料編

I 観光アンケート調査	38
II 観光振興計画策定委員会委員名簿	45
III 計画策定までの経過	46
IV 観光振興計画策定委員会設置要綱	47

# 観光振興計画体系図

仙北市の将来像

観光産業を活かした北東北の交流拠点都市

数値目標

交流人口1千万人（テンミリオン計画）

基本理念

市民には

観光で潤うまちづくり

観光客には

いつ出かけても何かある観光のまちづくり

基本方針 キーワード

「のこす」「いやす」「もてなす」

重点施策

- やさしさを感じる受入態勢
- 魅力を伝える観光情報
- 冬の観光を元気に

エリア別  
推進方向

- 武家屋敷周辺エリア
- 田沢湖周辺エリア
- 農山村エリア

施策の基本方向と展開

豊富な観光資源の活用と掘り起こし

- ・埋もれている観光資源の発掘
- ・新たな観光メニューの創出
- ・観光資源のネットワーク化

観光基盤の整備と交通の充実

- ・自然環境、農村風景の保全と歴史文化の継承
- ・観光施設の整備
- ・きめ細かな交通環境の整備

「おざってたんせの心」による受入態勢づくり

- ・ホスピタリティーの向上
- ・観光客にやさしい案内

観光情報の発信と情報の収集

- ・訪れたいと思っていただける観光情報の発信
- ・情報の収集とニーズの把握

観光と農林業、商工業の連携

- ・地場農産物の活用
- ・特産品の開発と販路拡大

ほんものと出会える体験型観光の推進

- ・感動を与える体験と交流
- ・学習旅行の支援

国際観光の推進

- ・外国人向けメニューの開発と情報の発信
- ・受入態勢の充実

計画の推進  
に向けて

計画推進体制の整備

市民、観光事業者、観光関係団体、行政の協働

問題・課題の解決

主な課題

日帰り、  
通過型の傾向

冬期観光客が  
少ない

観光地間の  
アクセスが不十分

情報発信の不足

受入態勢が不十分



## 1 計画策定の目的

仙北市は、自然や歴史、文化などのすばらしい観光資源に恵まれており、年間6百万人もの観光客が訪れる「観光のまち」として知られております。

しかし、観光客数はここ数年横ばいの状態であり、スキー客の減少などが示しているように、冬期間の観光客が他の季節に比べて極端に少ないなど、様々な課題を抱えております。

平成18年度に策定した仙北市総合計画の中では、市の将来像を「観光産業を活かした北東北の交流拠点都市」とし、観光を本市発展のための重要なキーポイントとして、今まで以上に力を入れることとしております。

観光の振興は、消費や雇用の創出等、直接、間接の経済効果があるだけでなく、訪れる多くの観光客との交流、更には仙北市の良さを知っていただくことにより、移り住む方々が増加し地域が活性化されるなど、さまざまな効果あることから、極めて重要であると考えられます。

このため、交流人口1千万人の数値目標を達成し、将来像を現実のものとするためには、既存の観光資源の活用のほか、埋もれている観光資源の掘り起こしや新たな観光メニューの創設等により、行政のみならず、市民、観光関係団体等が知恵を出し合い、創意工夫により観光客の誘致を強力に推進する必要があります。

この計画は、現在本市の観光を取り巻く現状と課題を踏まえ、これらを解決する方策、将来を見据えた観光施策の進む方向を示すものです。

## 2 基本理念

仙北市の観光に関連する産業は、基幹産業である農林業や商工業と密接に結びつき、観光の振興が全産業に与える効果が大きいことから、重要な産業として位置づけられています。

観光の振興を図るとともに、観光と農林業、商工業との連携により、市民全体が豊かになる「観光で潤うまちづくり」を進めます。

また、観光客には、何度でも訪れたい、周りの人にも勧めたいと思っていただける、一年を通して観光客を迎え入れることができる「いつ出かけても、何かある観光のまちづくり」を進めます。

## 3 計画期間

この計画は、仙北市総合計画の計画期間終期に合わせ、平成19年度から平成27年度までの9年間を計画期間とします。

また、観光を取り巻く社会、経済情勢等の変化に対応し、必要に応じ計画の見直しを行います。